

大森陽子の フレッシュ便



2010年3月25日発行 土佐市蓮池337-15 電話 852-4551 大森陽子

暮らしを見つめて

市政に送り出していただいて四年間、いろんな方に出会い、楽しい信頼の輪を広げることができました。感謝申し上げます。

厳しいけれど、人が困難に直面しているときには温かい手を差し伸べた父。「社会が貴女達を育ててくれたことを忘れないで」と言った母。貧しくても一生懸命私達を育て上げてくれた両親の姿と、市民の暮らしが、いつもダブって見えます。

暮らしを守る原点は、国の政治を良くしていくことですが、最も身近な市政の役割は大きなものがあると思ひ、議会の度に質問に立ち、みなさんの声を届けてきました。

三月議会の様子をまとめましたのでご覧になって下さい。今後ともよろしくお願いいたします。

三月議会報告

お母さんから子供の医療費の軽減を訴えられ

生後一年四ヶ月で難病にかかり、一年の半分を入院しなければならなかったA子さんは、一旦は回復し、難病指定を取り消されました。しかしまた、二年前に再発しました。ご両親は彼女の病気の進行を防ぐために懸命の治療を続け、月に約二万円の医療費が家計を圧迫しています。

しかし調べてみました。小学校に入学すると、障害者手帳の取得や難病指定のない方には、公的な医療費の援助はほとんどありません。

子供の医療費 中学校卒業まで無料化を

県下三十七市町村のうち、中学校卒業まで医療費を無料化しているところは、予定も含めて十五、小学校卒業までは四ヶ所ありました。

土佐市は県下に先駆けて保育料の軽減を行い、子育て中のご父兄に喜ばれています。医療費への支援は就学前までと貧弱です。

そこで、子供の医療費を無料化するために必要な財源を問ひ、中学校までの無料化を求めました。これに対し市長は、「小学校卒業まで拡大すると約四〇〇万円、中学校卒業まででは五六〇〇万円の財源が必要になる。県下の状況を勘案しながら早期に検討する」と約束されました。

土佐市人材育成奨学資金制度は

貸付から給付へと提案

土佐市の奨学資金制度は、日本学生支援機構の奨学金制度と比較して、所得制限は同じで成績条件は高くなっておりますが、将来土佐市で生活すれば返却する必要が無く、大変有利な制度です。しかし、土佐市の制度を受けるためには、「支援機構を受験してはざされた者」という条件が付いているため、制度が出来て五年間、誰も利用したことがない、利用できない、また、大変矛盾を含んだ欠陥制度となっております。去年の六月議会での点を指摘し、見直しを求めました。

また、就職氷河期の現在、奨学金の返済は若者にとつて困難が多く、滞納が増えております。ですから、たとえ金額は少なくても、多くの方が併用して利用できる、給付型の制度が求められると訴えました。

市長は、二十二年度中に給付も含めた制度の見直しをすると明言されました。

高すぎる国保に一般財源の投入と

国への働きかけを求める

土佐市の国保の保険料は、中小企業で働く三五〇〇万人のみなさんが加入する協会けんぽの一・七倍、県市町村共済組合の二・六倍。これは所得が二二三万円の四大家族で、固定資産割がない世帯の場合。また、国保加入者の状況は、所得が二二三万円以下の世帯が九割を占め、所得割のない世帯が四割。つまり、国保は、極めて所得が低い方達が加入しているため、わずかに所得がある

方達に過大な負担が掛かっている保険だと指摘し、一般財源の投入と、国に対して国保の支援を強めるよう、市長に求めました。

市長は、国に対して、あらゆる機会を通して申し入れていくと答弁されました。

特老建設の必要性を再度訴える

今回は市長に、特老建設は土佐市として必要と考えているのか、土佐市が特老を建設できないのは、国の施設整備計画をオーバーしているという理由のみかと、正しました。

市長は、所得が少なくても、介護度が高くて利用できる施設として、特老建設の必要性を認め、「二十四年度から始まる『第五次介護保険計画』に盛り込むよう、関係部署と慎重に協議する」と、これまでより一歩進んだ答弁をされました。

ガンを予防できる

夢のワクチンに公費負担と啓発を

子宮ガンのほとんどは子宮頸ガン。それを予防できる夢のワクチンが、日本でも昨年末に開発され、公費負担が急速に広がっていることを「新婦人しんぶん」で知りました。

初期費用に四〇〇〇万円必要ですが、次年度からは一〇〇〇万円です。また、遠からず国の支援も始まるでしょうから、土佐市でも早くに公費負担と啓発に取り組みよう求めました。市長は検討する。啓発は実施すると答弁。



これまでの議会で取り上げたこと

保育料の軽減を

二〇〇七年九月議会

保育料の軽減を様々な資料を駆使して求めました。私を知る限り、土佐市議会で初めての事だったと思います。

森田前市長最後の議会で、具体的な答弁は得られませんでした。後継者である板原市長の選挙公約で実現しました。

延長保育の無料化、四月より実施

二〇〇九年十二月議会

きっかけは、高知市から引越してきたお母さんから、「高知市では無料であった居残り保育料が、土佐市で有料なのはどうして」という素朴な質問からでした。すぐに調べてみると、居残り保育料を徴収していたのは県下で土佐市と須崎市と小さな村の三方所だけでした。

就学援助制度の

親切なお知らせを求め続ける

制度を作れば行政は積極的に市民に知らせ、必要な市民はよく勉強して制度を利用することが求められます。

最近、学校事務員さんから、「ずいぶん親切なお知らせになりましたね」と言われ、嬉しく思ったことです。



学校教育費及び

学校図書費の増額を

二〇〇六年十二月議会
二〇〇八年 六月議会
二〇〇九年十二月議会

土佐市の教育予算は、財政健全化計画のもと、毎年十五%カットを繰り返して、県下の約半分になっておりました。県の平均は基準財政需要額の約半分です。

そこで、具体的な数字で教材費の少なさ、学校図書費及び蔵書数の貧弱さを示して増額を求めました。板原市長は、三年計画で県下の平均まで引き上げること約束されるとともに、来年度から第一小学校、蓮池小学校に続いて高岡中学校へ図書担当の加配があることを報告されました。

今年度は学校図書費として六〇〇万円が計上されましたが、異例のことです。

教育は人作りです。今後とも、放課後児童クラブなど教育環境の整備に向けて努力して参ります。

耳の不自由な方に

市民病院で振動呼び出しベルを

二〇〇九年六月議会

手話サークルを主催している方からの要望でした。市民病院はすぐに対応してくださり、彼女たちは感謝しています。

また、耳の不自由な方達が地域で孤立しないよう、手話講習の再開を求めたところ、受講人員が確保できれば実施するとお約束下さいました。

障害者自立支援法について

初めての議会で、利用料の軽減措置、福祉施設への運営補助、国への働きかけを求めました。

医療・介護問題

医療・介護問題は、最初の質問からほぼ毎回取り上げ、土佐市から医療・介護難民を出さないよう求めてきました。

「病床削減の影響調査を」、「安価で重度の方でも利用できる特老の建設を」、「在宅サービスの充実を」、「在宅介護手当の増額を」、「介護認定者に障害者控除を」、「安価な高齢者市営住宅の建設を」と、あらゆる角度から高齢者やその家族の願いを代弁してきました。



後期高齢者医療制度の問題点を指摘

「後期高齢者医療制度」が議会で提案されたときからずっと、問題点を指摘し続けました。先の衆議院選挙で民主党は制度廃止を約束しましたが、先送りしました。この制度は続けられ続けるほど、負担が大きくなります。廃止に向け、国民的な運動が必要です。

妊産婦健診の無料化を

二〇〇七年六月議会

妊婦健診の四回までの無料化について、公費負担があるので年度途中でも実現するよう求めました。そして、十月実施が実現しました。

翌二月、国は妊婦健診を十四回まで無料とする財政措置をしたところ、土佐市はいち早くこれを取入れ、昨年二月より実施しています。

公用車にバイオ燃料の利用を

二〇〇六年 九月議会
二〇〇七年 三月議会

土佐市の障害者施設で、廃油からバイオ燃料を製造しているところがあります。この燃料をクリ

ンセンターや学校給食の配食車に使用するように提案し実現しました。

市民体育館東の火渡し川

兩岸の道路幅の確保を

二〇〇九年十二月議会

旧国道56号線より南、市民体育館の東を流れる火渡し川の右岸は体育館だけでなく、芋岡部落への進入路でもあります。また、左岸は尿尿処理施設のへの進入路で、兩岸ともに道路幅の確保が求められています。

しかし現在、火渡し川の改修が徐々に進んでおり、このままだと右岸の道は3メートル幅になり、車の行き違いできません。工法の変更も含めて、兩岸の道路幅の確保を、県土木事務所に求めるよう提案しました。

これに対し板原市長は、自ら出向き道幅確保に努力すると答弁されました。

大森陽子後援会へのおさそい



みなさん、こんにちは。
大森さんは元気いっぱい、子どもたちや高齢者の暮らしを守るために頑張っています。
ごいっしょに、暮らしやすい土佐市をめざして力を合わせましょう。
是非、大森陽子後援会にご加入下さい。

大森陽子後援会会長 川沢広海